

市内活動訪問記

オジャマンズ



光が丘公民館の活動

「サマーチャレンじ村」を取材しました



終戦記念日の8月15日に光が丘公民館におじゃましました。迎えてくださったのは女性の館長加賀谷直子さん。名刺交換をされる中忙しく別の所へ。私達はサマーチャレンじ村の見学です。

後でうかがったのですが、チャレンじ村は9年前に地域の有志7人で、子ども達が一人で過ごすことができない様にと夏休みの5日間、光が丘公民館を拠点にパークゴルフにチャレンジ、子供認知症サポーター講座、モノづくりのチャレンジ、ご飯を作ろうなど盛りだくさんの内容で、そして昼食も提供して子ども達の居場所つくりのために開村したそうです。

本日は今年度の最終日で言葉小の読み聞かせボランティアの皆さんを招いて、絵本の読み聞かせの体験、昼食をばさんで午後からはフリータイム、閉村式といった内容でした。私達は絵本の読み聞かせ体験を見学させていただきました。

少し時間が早かったのですが子ども達が集まり始めたため、開始時間まで飽きないようにと手遊びや体を動かして楽しませていました。今回の参加者は



笑顔も素敵な館長の加賀谷さん

小学2年生から6年生までの子どもが23人でした。本来は4年生から6年生までの20人ですが、兄弟も



一緒に来る子どももいて増えることもあったが、ほっこりしました。子ども達は言葉小、光が丘小、並木小の3校の小学生達で同じ位の参加数でした。

村長加賀谷さんの挨拶では終戦記念日の話などもあり「12時に黙つてしまふよ。今日は言葉小読み聞かせボランティアさんに絵本の読み聞かせをしていただきます」との紹介があり、読み聞かせボランティアさんにバトンタッチ。

代表の方からこれから始めることの説明があり、お手本に3人のボランティアさんが読み聞かせを始めるとみんな静かに聞いていました。

本の種類には創作絵本、科学の絵本、昔話・民話の絵本等色々あり見本に沢山の絵本が並べてありました。

読み聞かせには、読む人と聞いてくれる人がいる見る人に伝わるように読むことと教えられる、子ども達は5班に分かれ、班毎に相手に分かりやすい本、楽しくなるような本、低学年の子どものための読み聞かせの本、などそれぞれ3冊選んでいます。緊張している一人です。読んでいる方が楽しいと言っている子どももいましたが、みんなの前で読み始めると最初は小声だったのに、慣れてくると楽しそうに声も大きくなってきました。暫く班の中でお互い読み聞かせを行っていましたが、最後に「みんなの前で読んでみた人？」との声かけに3人の子が前に立って読みはじめ大きな声ではっきりと上手。そして3人交互の掛け合いは聞いていて



しかたです。次の子は一人で読んだのですが、とても上手で擬音いりで笑ってしまいました。次々と読み手が代わったけれど皆自信をもって読み聞かせていました。慣れるってすごいことだ。

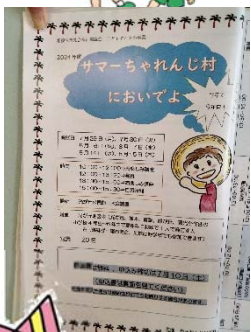
最後に加賀谷館長に運営に関してうかがいました。「今後の課題としては現在募集が20名だがもう少し人数を増やし開催したいと思っています。リーダーが多くなりすぎているので、嬉しいことは、卒業生が運営スタッフとして帰って来てくれること。今日も3人の中・高生が来てくれて食事の手伝いをしてくれている」とのこと。運営費に関しては、市社協と地区社協の助成金でまかなっています。

光が丘公民館で活発な活動ができるのは、地域活動の先輩方が若い人たちの意見を頭ごなしに潰したりせず、後押しをして見守ってくださるからおもしろいです。

最終日のお昼は、子ども達の大好きなカレーを食べて、午後は閉村式だそうです。今後はウインタ―チャレンじ村も考えていらっしやそうです。

今日は子ども達の生き生きとした楽しそうな様子を見ることができました。ありがとうございました。

(小川・恒藤・石関)



～今年度のサマーチャレンじ村 プログラム～

- けん玉にチャレンじ!
- お金について学ぼう!
- ものづくりにチャレンじ!
- OOを作ろう!
- ご飯を作ろう!
- こどもの防災!